

平成 元年 7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

市有形文化財指定の板碑^{いたび}

お寺の境内や旧家の墓地などで、頭部が三角の山形をし、その下に二条の切り込み溝が入り、その下の平面の上部に梵字^{ぼんじ しゅじ}（種子）、または図像などが、そして下部に年号などの文字が刻まれた、板状で縦長の青緑色した石を見かけたことがあると思います。これが鎌倉時代から室町時代の約 400 年間に造立された板碑といわれるものです。この板碑は前記したように材質が青緑色の石（秩父産の緑泥片岩^{りよくでいへんがん}）で出来ているものがあり、別名青石塔婆^{あおいしとう ば}ともいい、また板石塔婆などの呼びかたもします。板碑は石造の供養卒塔婆の一種であり、死者（例えば父母）の冥福を祈るための追善供養^{ついぜん}のものもあり、また自分の死後に極楽往生したいとか、させてほしいと願って仏に供養するため自ら造立するといったものや、さらに特定の宗教的行事のためのものがあります。

青梅市域にある板碑はほぼ 100%近くが、緑泥片岩を原材とする武蔵型板碑と呼ばれ、市指定文化財の板碑もあえて青石塔婆^{あおいしとう ば}といっています。現在、市内には残欠を含めおおよそ 1500 基が確認されています。初期のものは殆どありませんが、それでも青梅市域の中世の歴史を知るうえでの貴重な金石文で、また市内に現存するものの中では、優品また特殊な板碑を市有形文化財として、現在下記の 10 基を指定しています。一度現物を見ることをおすすめしますが、なるべくなら所蔵者の了解を得てから見学するよう是非心がけて下さい。

(1) 塩船観音寺の板碑 1 基

本堂の右の板碑堂内にあり、永仁 4 年（1296）の造立で、初期の結衆大型板碑として、学術的に有名である。

(2) 藤原宝泉寺の板碑 2 基

2 基ともきわめて優作で、左のは市内唯一の莊嚴の胎藏界大日（五点具足）を刻む。

(3) 吹上宗泉寺の板碑 2 基

本堂内に保管してあり。私年号（本来存在しない年号のこと）が刻まれている。

(4) 今寺報恩寺の板碑 2 基

完成品の板碑では市内最大。2 基とも弟子が師の逆修善根^{ぎやくしゅぜんこん}のため造立。

(5) 黒沢聞修院の板碑 1 基

本堂内に有。市内での最末期板碑。本尊が図像（阿弥陀仏）である。結衆板碑

(6) 成木安楽寺（7 小前の墓地）の板碑 1 基

天ヶ指の墓地に有。本尊種子のほとんどが阿弥陀仏であるが、これは釈迦仏である。

(7) 長淵泉寺の板碑 1 基

山門横の共同墓地にあり。形状が古様式で市内に現存するものでは最古に属する。横に年号不明であるが、さらに古い（13 世紀中ごろ）様式のものあり。

(文責 大澤清吾)